

追善供養

ついぜんくよう

「追善」とは、「故人の善きところを学び、自分のものにすること」おかげさまの心。

「亡くなったおかあさんは、いつも優しくて、微笑んでいたなあ」それが「教え」です。自分がおかあさんの優しさと微笑みを、まず「真似ていく」ことから始まります。最初はぎこちなくても、めげずに続けていくと、いつの時か、身についてしまう。そうすると、自分の子どもに「ママはいつもにこにこしているんだね」と言われるようになる。いつのまにか亡くなったおかあさんの教えをしっかりと継承したということです。

「継承」を言い換えれば「相続」になります。土地だの証券だのという物質ではありません。子孫が、生きていくうえで最も大切なことを受け取ること、そして我が人生をより豊かなものにしていくことが真の「相続」です。

故人からの「教え」は、すべてが「善いこと」ばかりではありません。「おとうさんは、休みの日はパチンコばかりして遊んでくれたことがない」のも「教え」です。自分が親になったら、休みの日は必ず子どもと一緒に過ごそう。と善い方に振り向けていく。「大切なことを気づかせてくれてありがたいな」と受け止めていけばいいのです。

こうして考えていくと、大切な人から、沢山の「学び」「気づき」を頂いているのですね。親をどうしても好きになれない、受け入れることができない、と悲観している人がいます。好きにならなくていいと思います。でも、感謝はできると思います。お父さん、お母さんが夫婦でいてくれたから今の「自分」が在るのだと、そして、自分が生きていくうえで大切なことを教えてくれたのだと感謝していけば良いではないですか。

「供養」とは、「人と共に養いあうこと」おたがいさまの心。

「供」の字は「人と共に」と書きます。「養」は「支え合って養い合う」ということ。人間は1人では生きていけない生き物だから「人の間」と表わすのですね。いつも誰かに支えられているんです自分は。水も、空気も、お米も、魚、肉、野菜も、作り出すことができないでしょう？品物を遠くから運んでくれる人がいる、そして品物を売ってくれるひとがいる。顔も知らない他人様が汗水流して作ってくれたものを頂いているわけです。

「自分がどれほどのものを作り出しているのか」と考えたらいい。お父さんがどんな思いで仕事してきたのか、お母さんがどんな思いで自分を生んでくれたのか。己（おのれ）1人でここまで来れたのですか？だから、いばらない、うぬぼれない、いじめない、こと。

仏さまからの戒めがありますが、その第一番目に「驕慢になってはいけない」とあります。人間は「すぐうぬぼれる生き物」であることを仏さまは見抜かれたのですね。

あなたが、幸せだなあ、がんばってよかったなあ、と感じるのはどんなときですか？

「あなたがいてくれて助かったよ、ありがとう」「よくがんばったね！お疲れさん！」「是非、またお会いしたいです」「お父さんが仕事がんばってくれるから家族が生きていけます」「君が家のことをしっかりやってくれているから安心して仕事をがんばれるよ」「困ったときはお互い様です」そんなあったかい言葉が行き交うのが人間の生き方ではないでしょうか。

家族や周りにいる人たちと、支え合い、助け合っていく、喜び、感謝をいつも感じながら生きていくことが「追善供養」です。

11月18日(月) わが青春に悔いなし！

私が中学一年のある日、せっせと貯めたお小遣いを握りしめ、レコード屋に走りました。そして震える手で穴が開くぐらい見つめていたのがビートルズのLPでした。ドキドキ、ワクワクしながら家に飛んで帰ったのを今でも覚えています。まさに、子どもから少年になり、青春の幕開けではなかったかなと思います。

あれからどれほどの歳月が流れても、ビートルズはいつでも、どんなときでも、絶対のヒーローでした。東京ドームのポールマッカートニーは、あの時のビートルズがそのまま躍動していました。71歳のサイコーにカッコいいおじさんでしたっけ。

今は、自分の子どもと同じ世代の若者とバンドを組んでいますけど、ポールは「さあ、ゼロから始めよう」とメンバーに伝えたそうです。常に自分をゼロにすることで、とらわれのない新鮮な気持ちでいられるんですね。これが若さと元気の秘訣か！

◎月△日(雨のち晴れ) 健康な小デブちゃんを目指そう！

数年前、「メタボ撲滅運動」は成功を収めました。が、じわじわとメタボは忍び寄り、ついに「中肉中背のおじさん」から「小太りのおじさん」になってしまいました。子どもには「おとうさん、このお腹何とかしようよ」家内には「あまり厚着しないでね、クマになっちゃうから」とやんわりやんわりいじめられる始末。身体に入る量が、出ていく量より多いから太るのだ、と道理は十分に理解しつつも、思いと現実は裏腹。

長い思索の末に出た結論は「小デブでもいい、健康であれば」「最期のときまで、自分のことは自分でできるように」であります。キログラム、カロリーなどの数字にこだわらない、運動して汗をかく、のが活動方針です。まあ後は、油断しない、怠けないことですね。